

## 手順書: 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

### 25. 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整(1)

#### 【特定行為の概要】

医師の指示の下、手順書により、身体所見(食事摂取量、栄養状態等)及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整を行う

#### 【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

- ☐ 高カロリー輸液中の患者で、食事摂取量の変化、栄養状態の変化を認める患者
- ☐ 脱水が疑われる場合
- ☐ 持続点滴が長期に及ぶ場合



#### 【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

- ☐ 意識状態の変化がない
- ☐ バイタルサインの変化がない

病状の  
範囲外

不安定  
緊急性あり

担当医師に直接連絡



病状の  
範囲内

安定  
緊急性なし



#### 【診療の補助の内容】

- ☐ 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
- ・栄養スクリーニングを行い、栄養評価を行う
- ・栄養投与量を決定する
  - 1 日に必要なエネルギー代謝量: 基礎エネルギー代謝量 × 活動係数 × 侵襲係数
  - 基礎代謝エネルギー量は Harris-Benedict の式を使用
  - 1 日に必要な蛋白質量・脂質量・水分量、電解質・微量元素
- ・栄養投与量から適切な TPN 製剤を選択し、1 週間かけて段階的に投与量を調節する



#### 【特定行為を行うときに確認すべき事項】

- ☐ 意識レベルの変化
- ☐ バイタルサインの変化
- ☐ 刺入部の状態(発赤、出血、感染兆候など)
- ☐ 食事摂取量
- ☐ 栄養状態(検査値: TP・Alb・PA・RBP・Tf・ChE、体重等)
- ☐ 血管痛、静脈炎、高血糖、低血糖、アシドーシスの有無
- ☐ 水分出納バランス
- ☐ 過剰な輸液による心不全徴候(呼吸状態の変化、浮腫など)

<確認事項>

異常・緊急性あり

担当医師に直接連絡



#### 【医療の安全を確保するために医師又は歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

- ☐ 担当医師に直接連絡する



#### 【特定行為を行った後の医師又は歯科医師に対する報告の方法】

- ☐ 担当医師に直接連絡する
- ☐ 特定行為の実施を診療録に記載する